

令和8年6月15日

沖縄教職研究会

受講料0円で高校4名が最終合格

－実務経験豊富な講師陣で万全な態勢－

「採用者数を増やし、正規率90%を目指す」「志願者が過去最低を更新」などのニュースが流れます。

一方、試験区分によっては「率や志願者数では表現できない」ほど厳しいところがほとんどです。さらに、立ち位置を全体ではなく個に置きかえてみると、「自分は……」と、誰しもが抱く不安です。これをなんとかしてでも乗り越え、目標を実現する必要があります。そのために頑張ってきました。

第2次試験において論文試験がなくなった分、模擬授業、個人面接の比重が従前よりも格段に増すことは自明の理です。沖縄教職研究会ではこのことを踏まえ、4年前の2次対策講座から「実務経験豊富な講師陣」が指導に加わり、大教室、小・中教室複数の教室をフル活用し、今でいう「協働的な学び合い」「個別最適な学び」を展開してきました。

ここ数年、連続して2次対策講座受講生のうち小学校に加え高校「1人枠」「2～3人枠」など合格者数が極めて少ない試験区分も含め多くの方が合格、正規の教員として教壇に立っています。

しかし、合格者数がわずかな試験区分であったとしてもご期待に沿えることができなかった現実もあり、私どもでよければ、一定の条件下で昨年に引き続き受講料0円（無料）の対応をとらせていただくこととし、この制度は来年度（令和9年度）にも適用することにしております。

昨年度は、この受講料0円制度を利用して対策講座に参加した4名の方が最終合格いたしました。

改めて気を引き締め、受講生の目標の実現にお手伝いさせていただきたく、万全な態勢を整えました。

次ページ以降の内容

- 1 日程及び会場
- 2 受講料
- 3 受講料のお支払い
- 4 実施方法
- 5 お申込み方法
- 6 提出していただくもの
- 7 講座の内容及び運営
- 8 留意事項

※添付資料

- ※1 昨年度（令和7年度）の対策講座の一例
- ※2 2次対策講座を受講した方からのメールの一例（原文のまま）

1 日程及び会場

(1) 日程（令和8年7月～8月の中の5日間／1日5時間／10:00～16:00）

月・日・曜日		501教室 (大)	502教室 (中)	503教室 (中)	504教室 (小)	備考	
令和8年7月	17	金				「夏選考」第1次合格発表	
	18	土					
	19	日					
	20	月	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後	1日目（海の日）
	21	火					
	22	水					
	23	木					
	24	金					
	25	土		午前・午後	午前・午後	午前・午後	2日目
	26	日					
	27	月					
	28	火					
	29	水					
	30	木					
31	金						
8月	1	土	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後	3日目
	2	日					
	3	月					
	4	火					
	5	水					
	6	木					
	7	金					
	8	土	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後	4日目
	9	日					
	10	月					
	11	火	午前・午後	午前・午後	午前・午後	午前・午後	5日目（山の日）
	12	水					
	13	木					
	14	金					
	15	土	「夏選考」第2次試験（1日目）				
	16	日	「夏選考」第2次試験（2日目）				
10月		「結・UI(ゆい・ゆい)特別選考」「秋選考」に向けた2次対策講座（1日4時間、期日未定）					
		①「夏選考」の2次対策講座に受講した方が必要とする場合のみ開講					
		②「夏選考」の2次対策講座の受講生は受講料不要					
		③講座の内容は模擬授業を中心として多少個人面接も取り入れ					
		④実施要項は後日、ご案内					
24	土	「結・UI(ゆい・ゆい)特別選考」「秋選考」第2次試験					

(2) 会場 沖縄県総合福祉センター（東棟5階）

- ① 那覇市立石嶺小学校斜め向かい
- ② 無料駐車場あり
自販機あり（教室の下の4階）
コンビニが隣接してあり

2 受講料

① 【講座1】教職教養予想問題の現年度受講生	40,000円
② 過去に2次対策講座を受講	30,000円
③ 第2次試験の情報提供あり	0円(無料)
④ 上記①②③以外	80,000円 → 60,000円

※1 「③第2次試験の情報提供あり(受講料0円)」とは、次の㉗～㉙3つの要件を満たす方のこと。

㉗ 過去に2次対策講座を受講

㉘ その年の第2次試験の内容の詳細(第2次試験の模擬授業、個人面接で聞かれたこと等)を当方に提供

㉙ その年の第2次試験の結果(合否、得点、順位)を9月30日までに当方に提供

※2 「第2次試験の情報提供あり 0円」の制度は、来年度(令和9年度)にも適用します。

昨年度(令和7年度)は、4名の方がこの0円の制度を利用して最終合格いたしました。

※3 「結・UI(ゆい・ゆい)特別選考」「秋選考」で受験する方において、書類選考の結果、第2次試験に至らなかった場合、受講料は次年度に振り替えます(次年度に開催する2次対策講座の受講料は不要)。

3 受講料のお支払い

講座初日の令和8年7月20日(月)、講座開始前に会場にてお支払いください。

なお、定刻(10:00)に講座を開始いたします。

4 実施方法

① 令和8年7月20日(月)～8月11日(火)の間の上記の5日間、1日5時間。

	時間	対象	備考
全日程	10:00～16:00(1日5時間×5日)	小、中、高、特、養、結・UI特別選考、秋選考	昼食あり

② 本研究会編集のテキストを使用します。テキストと添付資料は、初日に配付します。

③ 受験調書の書き方の見本「受験調書—こういう書き方はどうですか—」を初日に配付し、解説いたします。

④ 講座期間中、受験調書の添削指導に応じます。

⑤ 大教室と中・小教室を併用します。

大教室で全体への指導、その後同時併行して、隣接する中・小教室で少人数、個別指導を行います。

まず大教室に入室、座席を確保し、ご自分の荷物等を置いてください。

⑥ 大教室では個人面接、模擬授業とも、「次、やりたい方」「その次、やってみたい方」等原則として希望制です。同一人物に偏らないように配慮します。

⑦ 模擬授業、個人面接の実施回数が少ない場合は、その旨お申し出ください。

⑧ 教室への出入りは自由です。

⑨ 全日程をとおして複数の教室を活用し、実務経験豊富な講師陣とお互い同士による

協働的な学び合い と **個別最適な学び** による **目標の実現** を目指します。

5 お申込み方法

① 第1次試験の合格発表があり次第、HP「お申込み・お問合せ」のページからメールにて承ります。

② 当方から受け付けた旨の返信メールを差し上げます。

返信メールの着信をもって受け付けたものとします。これ以降、キャンセルはできません。

発信元(スマホ等)を info@okikyoken.org からのメールを受信できる状態にしておいてください。

③ 先着順で、定員に達しましたら締め切らせていただきます。一人当たり少なくとも模擬授業、個人面接各々3回以上は確実に実施することができるよう、定員を設定いたします。

6 提出していただくもの、毎日ご持参するもの

- ① 講座の初日の受付時に、次を各4部、ご提出ください。
 - ㊦ 受験調書
受験調書が講座初日までに未完成の方は、教育庁への必着日を考慮しながら添削指導に応じます。
 - ④ 事前通知（模擬授業の課題）（初日までに届いていない場合は講座2日目）
 - ㊧ 模擬授業の課題に係る教科書及び指導書の写し（同上）
- ② 受験校種、教科・科目の『学習指導要領 解説』
- ③ 昼食、水（会場は空調が完備していますが、水分の補給は不可欠です）。4階に自販機あり
- ④ その他、第2次試験に向け必要とされるもの

7 講座の内容及び運営

(1) 共通事項

- ① 第2次試験は、第1次試験と異なり試験官（面接員）の主観が大きく働く試験です。実務経験を踏まえ、「人が人を評価する試験」であることを肝に銘じて講座の運営にあたります。
- ② 各日程それぞれ受講生全員が一教室に集まり、一人一人が全員を前にして模擬授業、個人面接を行います。
さらに一人一人個別に、又は少人数により、別の教室で模擬授業、個人面接の指導を行います。
今でいう「協働的な学び合い」「個別最適な学び」です。
- ③ 講座の参加者は、個人面接の面接員役を務めるとともに、模擬授業直後の授業研究会に加わり授業者に対する質問、助言を述べていただき、「協働的な学び合い」の場をつくります。
- ④ 模擬授業、個人面接の実務経験を踏まえ、本研究会が独自に編集したテキストに基づき、第2次試験の過去問、評価の観点を解説します。テキストは、初日に配付します。
- ⑤ 模擬授業及び個人面接の一人当たりの実施可能回数は、少なくとも各3回程度は余裕をもって実施できる日程を組み、定員を設定しています。
時間に余裕があり、希望者がおればさらに回数を増やしていきます。例年、そうしています。
回数が少ないと感じる方は、その旨お申し出ください。
- ⑥ 「英語の口頭による質疑応答」には対応しておりません。
- ⑦ 講座の運営は、主催者に一任させていただきます。
- ⑧ 予告なく、変更することがあります。

(2) 模擬授業

- ① 模擬授業は、授業終了直後に他の受講生から質問やアドバイスを受ける「授業研究会」方式で行います。
- ② 構想や板書の時間（4分間）→模擬授業（8分間）→授業研究会（1人につき5～10分程度）→次の方へ
- ③ 授業後には本番同様、実務経験のある講師が授業のこと、教科等のことについて質問を行うとともに授業に対するアドバイス（よい点、改善すべき点等）を行って締めくくり、次回の模擬授業にいかすようにします。
- ④ 模擬授業は、教育庁から送られてきた「事前通知」をもとに、あらかじめ各自で構想しておきます。
- ⑤ 模擬授業中の「実技内容」について、ピアノ、調理器具等の備品、設備等はありませんので、目の前にあるものとして「エアー」で授業をしてもらいます。電子黒板、理科実験器具、体育備品等についても同様です。
- ⑥ 同一時間帯に複数の教室を確保してあります。受講生全員が一教室で行うことをベースとしつつ、同一試験区分（例えば小学校、中学校国語）受講生が別の教室に移動して模擬授業を見せ合うなど、臨機応変に進行する場合があります。お互いそれぞれに、他の模擬授業の参観、質疑応答が自身にとってもとても勉強になります。
もちろん、実務経験豊富な講師がつきっきりで指導にあたります。
ここ数年、小学校のほか高校「1人枠」「2～3人枠」など合格者の極めて少ない他の試験区分でも多くの受講生が合格していった要因の一つと考えられます（受講生のメール）。
- ⑦ 午前と午後の間の1時間（12:30～13:30）は、毎日複数の教室が空きます。自由にお使いできます。
- ⑧ ご自分の模擬授業を後で検証するため、スマホ等で録画することが可能です。
スマホスタンドは各自でご用意ください。

(3) 個人面接

- ① 個人面接は、本研究会が編集したテキストを使い、講師とともに受講生も面接員役を務めます。
ご自身が面接員役を務めることにより、「見えてくるもの」があります。
「他の人だったら、どういう答え方をするのだろう」
「どうも答えられそうにない質問を行う」
－相手の応答で自身も学びます。
- ② そのためには、テキストに収録されている大量の「質問例」をスラスラと言え、かつ、答えられるようにあらかじめ予習してもらいます。
- ③ 適宜、質問に関連した事項や応答したことについて、面接を受けている方以外の受講生全員に対しても共通に説明や解説を行います。
例えば、ストレスの解消の仕方、人間関係のつくり方、場面指導の話し方（学年集会での児童生徒を前にした話し、学級開きのあいさつ……）など。
- ④ 特に、これまで受講生からお寄せいただいた実際の情報を基に、実際の質問事例を多数収録してあります。
例えば、「『主体的・対話的で深い学び』とは、どのような『学び』ですか」
「C評価の児童生徒に対する手立て・支援をどうしますか」
「自立活動とはどういう活動ですか」
「自立活動の指導にあたって、最も大切なことは何だとあなたは考えますか」
「養護教諭の職務の特質を簡潔に述べてください」
「耳眼水平位とはなんですか」
「職員会議において、来週行われる健康診断の留意点を職員に説明してください（2分程度）」
「SNSのトラブルに巻き込まれた児童（生徒）がいます。全員に2分程度で指導してください」
- ⑤ 受講生全員が一教室（大教室）で行うことをベースとしつつ、隣接する規模の小さい教室で個人面接、模擬授業を行うなど、臨機応変に進行する場合があります。個々のご要望には応じかねます。
個人面接、模擬授業の回数が他に比べて少ないと思われる方は、遠慮なくその旨申し出てください。
- ⑥ 「無気力な児童（生徒）に対し、あなたはどのように対応しますか。」など、受講生の質問、お悩みにどのように答えたらよいか、ご質問、ご希望があれば「答例」を講師が実演してお示しいたします。

(4) 受験調書

- ① 講座初日に、「受験調書－こういう書き方はどうですか－」を全員に配付し、説明を行います。
- ② 講座期間中に、受験調書について個別の添削指導に応じます。
教育庁への必着の期限が設定されています。十分、留意してください。
- ③ 個人面接の際は、この受験調書をもとにした質問も行います。

8 留意事項

- ① 緊急時の対応について、県の方針に準ずるとともに借用する施設の方針に従って運営してまいります。
- ② 教室への出入りは自由です。講座に参加した日数、時間数に関わらず、受講料は上に示したとおりです。
- ③ 沖縄教職研究会のサイトに掲載されている「2次対策実施要項」と異なる部分は、この実施要項によります。
- ④ 予告なく変更することがあることをご承知おきください。

- ① 次のページに、沖縄教職研究会が目指す「学びのカタチ」のイメージ図
- ② その次のページに、2次対策講座のテキストの見本
- ③ さらにその次のページに、2次対策講座を受講した方からのメールの一例（原文のまま）

2次対策講座－目指す「学びのカタチ」

令和8年6月15日

沖縄教職研究会

沖縄教職研究会が目指す2次対策講座の「学びのカタチ」は、次のとおりです。

→ここ数年（令和5～7年度実施試験）の2次対策講座は、このカタチで展開しました。

→今年度（令和8年度実施試験）の2次対策講座も、このカタチで展開してまいります。

1 条件

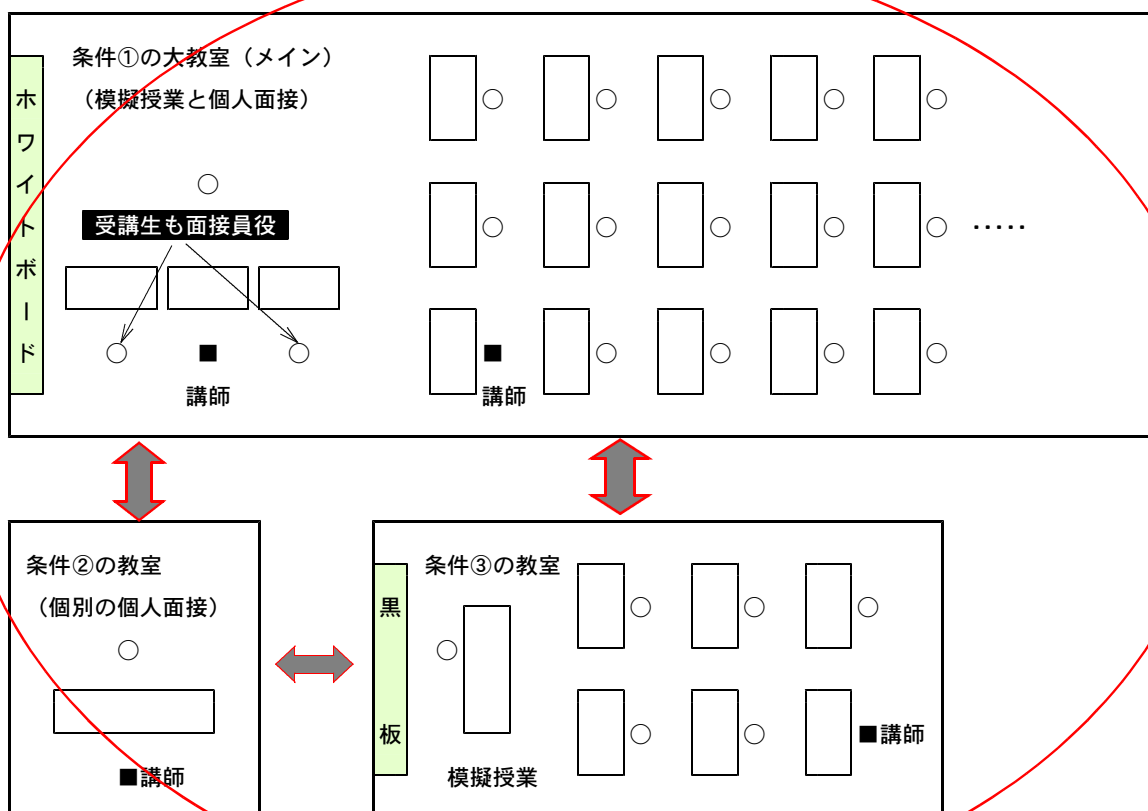
次の①～③の教室が一つの建物内にあり、隣接していること。

- ① 受講生全員による「協働的な学び合いの場」が形成できる大きめの教室
 - ② 一人ずつの「個別最適な授業指導・面接指導」ができる小規模の教室
 - ③ 同一試験区分（例えば小学校）などの小集団で「模擬授業を見せ合いして切磋琢磨」できる中規模の教室
- 意図するのは、実務経験豊富な講師陣とともに

協働的な学び合い と **個別最適な学び** による **目標の実現**

2 イメージ

沖縄教職研究会が目指す「学びのカタチ」



2次対策講座のテキストの見本／印刷所にて印刷・製本

次の画像は、2次対策講座で使用するテキストの表紙です。

令和8年度版はさらに頁数が増えます（A4版製本164頁＋メモ用ページ）。

令和8年度実施
沖縄県教員候補者選考試験
2次対策講座テキスト

複写・複製を固く禁ず

個人面接・模擬授業 - 傾向と対策 -

添付資料

- 沖縄県教育委員会が求める教員像（＝選考で重視する視点）
- 学校教育における指導の努力点
- 沖縄県学力向上推進施策「自立した学習者」育成プロジェクト
- 「問い」が生まれる授業サポートガイド
- 学習評価の基本的な考え方
- 受験調書ーこういう書き方はどうですかー

沖縄教職研究会

次は、2次対策講座で使用するテキストの内容の一部です。
表紙はカラー、本文はモノクロです。

本書の特長と効果的な活用法

本書は、2次対策講座で使用するテキストです。

沖縄県の公立学校教員候補者選考試験の第2次試験は、コロナ禍の令和3年度から論文試験がなくなり、主として①模擬授業と②個人面接により、合否が判定されます。論文試験が課されない分、模擬授業と個人面接の比重が各段に大きくなることは自明の理です。

この二つの試験は、機械が採点する第1次試験と異なり、いずれも「人が人を評価する」試験です。このことを踏まえて編集しており、講座を展開してまいります。

本書には、過去十数年、私どもの2次対策講座を受講されてきた皆さんのお力が詰まっております。毎年、貴重な情報を提供していただいております。「面接員（試験官）の生の声」が耳元で聞こえます。何ものにも代え難いかけがえのない財産であり、最大の特長です。

本書のもつこの特長をいかし、豊富な質問例に目を通しながら、「あの場に身を置き」徹底してイメージトレーニングを繰り返していくことを強くお勧めいたします。

2次対策講座は、おもにこのテキストを使って進めてまいります。実際の試験で質問される内容はほぼ予想できます。「他に学ぶ」－あなたへの質問と他への質問が異なる場合が多々あります。2次対策講座で他の授業、面接を参観したことが、本番でとても役に立った旨の報告をたくさんいただいております。

教育経験豊富な講師陣がお供し、目標の実現に向けてお手伝いをさせていただきます。

も く じ

○	メモ用ページ（罫線付き4頁分）	
○	本書の特長と効果的な活用法	1
○	第2次試験に臨むあなたへ	4
○	第2次試験の内容・結果の提供について（お願い）	5

第1章 第2次試験の概要

1	第2次試験の概要	6
2	第2次試験の流れ	7

第2章 個人面接

1	個人面接における評価項目及び面接審査の着眼点（予想）	8
2	総合評定	8
3	評定の要素	8
4	評価の観点	9
5	過去の質問（共通例）	9
6	個人面接で高得点をとるために心がけること	9

第3章 演習（個人面接）

1	共通事項	10
2	受験調書・面接調書	11
3	教師論	13
4	学校経営への参画	17
5	ストレス・心身の健康管理	22
6	教員の不祥事	23
7	外部からの苦情への対応	25
8	学級・ホームルーム経営	26
9	授業・学習指導	31
10	生徒指導	36
11	キャリア教育	40
12	食育	41
13	家庭や地域社会との連携・協働	42
14	学習指導要領	43
15	県教委施策・本県の課題	47
16	教育時事・その他	49
17	特別支援学校	50
18	養護教諭	54
19	場面指導（スピーチ）	59

第4章 模擬授業

1	模擬授業の評価の着眼点	66
2	総合評定（5段階評定）	66
3	学習評価について	66
4	模擬授業で高得点をとるために心がけること	66
5	授業における基本事項（「問い」サポ）	66
6	振り返りシート（「問い」サポ）	66
7	C評価の児童生徒に対する手立て・支援	66
8	過去の質問（共通例）	67

第5章 演習（模擬授業）

	模擬授業に入る前の「言葉かけ」	68
1	小・中・高等学校	68
2	特別支援学校	78
3	養護教諭	80

第6章 過去の全質問（模擬授業・個人面接）

1	令和3年度実施試験	82
2	令和4年度実施試験	96
3	令和5年度実施試験	105
4	令和6年度実施試験	119
5	令和7年度実施試験	132

第7章 添付資料

1	沖縄県教育委員会が求める教員像（＝選考で重視する視点）	146
2	学校教育における指導の努力点	147
3	授業における基本事項（「問い」サポ）	148
4	模擬授業チェックシート（「問い」サポ）	149
5	学習評価の基本的な考え方	150
6	沖縄県学力向上推進施策 「自立した学習者」育成プロジェクト	別冊
7	「問い」が生まれる授業サポートガイド	別冊

第8章 受験調書

1	受験調書（様式7のNo.1とNo.2）	158
2	「受験調書—こういう書き方はどうですか—」	別紙

次のページからテキスト本文の一部（本文はモノクロ）

2 受験調書・面接調書（様式7 No.1、No.2、様式9）

ポイント ①受験調書に書いてあることからの質問が多い。

- ②受験調書に限らず、すべての個人面接や模擬授業後の質問でも、あなたが答えたことに対して面接員は「それでも……」と、さらに深く突っ込んでくる。
- ③面接員に負けない。理路整然と答えてあげる。面接の醍醐味であり、得点を稼ぐ絶好のチャンスである。

質問1 受験調書（様式7 No.1）に書いてある次のことについて、口頭で説明してください。

- ①志望動機
- ②学生生活で最も印象に残った事象（学生時代に力を入れたこと）
- ③これまでに最も努力してきたこと
- ④これまでに取り組んだ地域・社会活動等（ボランティア活動等）
- ⑤この経験を、教員としての仕事にどういかせるか。

※各質問にメモ書きができるように、質問項目間に5行分35mmの余白を設けてあります。

質問2 受験調書に書いてあるボランティア活動について

- ①どういう内容で、どの程度の期間でしたか。
- ②そのボランティア活動の体験から得たもの（一番ためになったこと）は何ですか。
- ③この経験を、教育現場でどういかしていきますか。
- ④ボランティア活動を行って、あなた自身どのような力が身につきましたか。
- ⑤なぜ、ボランティア活動をする気持ちになったのですか。
- ⑥体験活動がもたらす教育的効果にはどのようなものがあると考えていますか。

傾向とポイント ①ボランティア活動についての質問が目立つ。

- ②質問をするということは、面接員も関心があることの証左であり、面接試験において重要なこと。ポジティブに捉える。自分自身が実際にやってきたことなので、自信を持って答えられる。

質問3 受験調書に書いてある卒業論文、研究内容等について

- ①どういう内容ですか。
- ②これを教職の仕事にどういかすことができますか。

3 教師論

ポイント 自身がもっている教師像を、「自分のことば」で語りかける。

「丸暗記」したことを「再生」しようとする、緊張してうまく相手（面接員）に伝わらない。

質問 1 ①教員（教師）を志望した理由を簡潔に述べてください。

②（県外出身者）どうしてあえて沖縄県の教員（教師）ですか。

答例 はい、教員（教師）を志望した理由が二つあります。

一つ目は、とにかく、子どもが大好きであり、教えることが大好きだからです。

（→その根拠を、簡潔に述べる）／①ダラダラと、②いかにも暗記したかのように述べない。

二つ目に、教職を通じて社会貢献をしたいことにあります。

教員（教師）という職業は、①子ども、②教えること、この二つが大好きである自分自身の生きがいでもあります。私は、家族や恩師、周囲の友人たちに恵まれ、大学・大学院までいかせてもらい今、こうして面接試験を受けさせていただいております。

これからは、その恩返しであり、社会貢献をする番です。沖縄の子どもたちに、夢や希望をいだかせ、その夢や希望を実現することができる道筋や力をしっかりと身に付けさせたいと思い、教員（教師）を志望しました。

※1 面接員が「教員」と言ったら「教員」と、「教師」と言ったら「教師」で統一する。

2 元気よく、表情豊かに、身を乗り出して、面接員の目を見て、「自分のことば」で述べる。

3 「一つ目」の根拠を加え、ゆっくり述べても、2分以内でおさまる。

4 なお、「暗記したことを思い出しているナ」と、面接員に思われたら合格はおぼつかない。

【2次対策講座では】

※1 **質問** の一部について、上のような **答例** を示しています。

2 実際の講座では、**答例** を参考にして答え方の説明を行います。

3 そして、受講生一人一人が、「自分のことば」で述べることができるように何回も繰り返します。他の受講生が見ている前で行う場合もあり、小教室で個別で行う場合もあります。

4 これまでの経験上、慣れてきます。誰でも「自分のことば」で語るできるようになります。

質問 7 教員として必要なこと（資質・能力）は何だと思えますか。

答例① （同僚や保護者などとのコミュニケーションを図ることについて答える）

はい、校長先生を始め、同僚の先生方とコミュニケーションを図り、一緒になって仕事をしていくことではないかと、私は思います。

教師としての使命感、子どもたちへの深い愛情、教職についての専門的な知識そのために謙虚になって学び続ける姿勢などはもちろんのこと、これらの基盤の上に、さらに同僚の先生方、保護者、地域の方々など、周囲とのコミュニケーションを図ることだと、私は思います。

答例② (心身ともに健康であることについて答える)

特にここ数年、心因性による病気休職が大きな課題になっており、心身の健康のことについて毎年聞かれている。

答例③ (選考で重視する視点＝沖縄県教育委員会が求める教員像の中から答える)

毎年、教員候補者選考試験実施要項の冒頭に、「選考で重視する視点」がある。
この中から自分にあった内容を、「自分の言葉」で答える。

5 ストレス・心身の健康管理

ポイント ここ数年、とくにこの質問が多い。次を自分なりにまとめておく。

- ① ストレスの原因
- ② ストレスの解消法

6 教員の不祥事

ポイント 教員の不祥事について、突っ込んで聞かれる。「誘導質問」もたまにある。

- ① 「場合によっては……」など、面接員に誤解されかねない不用意な発言や態度は絶対に禁物。
- ② 当該教員の懲戒免職で済む問題ではない。学校教育、職に対する県民の信頼そのものを失墜させる、地に落とさせる行為である(強い調子で述べる)。

8 学級・ホームルーム経営

ここでは、「学級」と表記する。高等学校にあっては「ホームルーム」と読み替えること。

ポイント 学級は、児童生徒にとって学習や学校生活の基盤。

- ① 自分のことばで、目指す学級像をスラスラと言えるようにする。
- ② 『『支持的風土』のある学級を目指します』－面接員に「またか」のような顔をされる。

質問 1 子供たちにとって、学級とはどのようなものだと思いますか。

質問 2 ①あなたが学級担任になったら、どのような学級を目指しますか。

②（受験者の応答に対して）そのような学級にするために、どのような取組を行いますか。

質問 3 ①学級担任・ホームルーム担任として、特に力を入れたいことは何ですか。

②（受験者の応答に対して）それはどうしてですか。

答 3 はい、私がホームルーム担任として特に力を入れて取り組みたいことはキャリア教育です。

私は、キャリア教育は生徒一人一人が「自分はどうして生きていこうか」ということを考える、まさしく「人間としての生き方」の教育だと思っています。

（ここ数年、高校の受験者に聞かれている。具体的にどう取り組んでいくか、次に聞かれる）。

具体的には、学校全体とのつながりを図りつつ、キャリア教育の要となるホームルーム活動の年間指導計画35時間の中に、キャリア教育に係る内容を少なくとも10時間程度は確実に組み込んでいきます。1年間を通して生徒一人一人が自己の在り方、将来の生き方をみつめる時間を設定していきます。

※（さらに聞かれたら、自身の体験を語る）

私が高校1年のときのホームルーム担任の影響があります。その担任の先生のおかげで今の私があります。

（臨時的任用期間中でホームルーム担任のときには、常にそれを実践してきたことを述べる）

※1 次のページに、昨年度（令和7年度）の一例

※2 さらにその次に、昨年度受講生からのメールの一例（原文のまま）

※昨年度(令和7年度)の一例です。

2次対策講座

～これまでの実際とこれからの予定～

沖縄教職研究会のHPをご覧ください、ありがとうございます。

2次対策講座が始まった7月21日(月)以降、この数日の間に連日、100件あまる訪問者をいただいております。閲覧ページはその数倍になります。

講座の内容について、「より具体的に教えて欲しい」問い合わせをいただいおり、さらに講座が始まっているにもかかわらず、数名の新たなお申込みいただいております。

これからのお申込みをご検討いただいている方向けに、初日(7月21日)と2日目(7月23日)の講座の実際と今後の予定について、下記のとおり取りまとめご案内申し上げます。

記

1 受講料等について

- (1) 受講料は、講座に出席する日数、時間数にかかわらず、実施要項に示したとおりです。
- (2) 配付する資料は、お申込みのタイミングにかかわらず、皆同じです。

2 講座の実際/1日目(7月21日)

- (1) 大教室(501教室)で全体向けに

- ①面接調書の書き方
- ②学習評価、特に観点別評価のこと
- ③場面指導の実際(実技・演習)

- (2) 小中の3教室(502・503・504教室)で

(大教室で全体的な指導(面接調書の書き方、学習評価のこと、場面指導のことなど)行いつつ)

- ①お一人ずつ大教室から抜け出し、あらかじめ設定された時間帯に個別の面接指導を3名の講師で分担して実施
- ②受講生お一人ずつが3名の講師に指導を受けることができるように設定
- ③但し、この日は初日ということもあり、お一人の時間は10分程度の3回(3名の講師)

受講生Aさんが3講師の面接指導を受けるということ。

3 講座の実際/2日目(7月23日)

- (1) 大教室(501教室)で全体向けに

- ①初日の面接指導を終えた講師3名のアドバイス(全体に共通すること)
- ②学習評価、特に観点別評価のことについて詳細に解説
- ③場面指導の実際(この日、7名の方が皆の前で実演、講師も実演)
- ④「個人面接で、こういう質問にはどう答えたらよいか」など、受講生の質問に講師が実演

- (2) 小教室(502・504教室)で個別に

(大教室で全体的な指導(面接調書の書き方、学習評価のこと、場面指導のことなど)行いつつ)

- ①初日に個人面接ができなかった方、少なかった方を対象に別途個人面接を実施
- ②全員を対象に、あらかじめ設定した「個別の割当て表」にそって個人面接(面接調書を含む。)
- ③この日は、お一人(初日の2倍)20分程度(面接調書を含む。)

- ④（模擬授業の課題が届いていたということもあり）小学校全員が一教室に集まり、講師を交えて模擬授業の課題について話し合い（高校の数学も加わる）

4 講座の実際／3日目（7月26日）以降

(1) 大教室（501教室）で全体向けに

- ①徹底して場面指導の実際（手元のテキストには、ここ数年分の場面指導の内容が大量に収録されている）
- ㊦「場面指導をやってみたい方ありますか」
- ㊧「手をあげた今の方に、どういう場面指導を行って欲しいか、その場で示してください」
- ㊨場面指導の実演 → 本人の感想 → 他の受講生のアドバイス → 講師の講評、できるだけ講師が実演
- ②テキストに収録されていないこと以外を含め、こういう質問にどう回答をしたらよいか、講師が答える。

(2) 小中教室（今後4日間とも 502・503・504教室）で個別に

大教室で全体を対象にした指導を行いつつ、併行して

- ①お一人ずつ、「個別の割当て表」により、県教委の実施要項に即して模擬授業、個人面接（面接調書含む。）
- ②初日、2日目を通して他より面接が少なかった方については、これを配慮して時間帯を設定

(3) 上記が基本。但し、臨機応変に対応する。

講座の進行は主催者に一任してもらう。

3日目（7月26日・土）／個別割当て表

（お一人ずつ 20分程度）

- ①模擬授業を行います。模擬授業の準備が整っていない方にとっては個人面接（受験調書含む。）に振り替えてください。
- ②1日目、2日目を通して回数の少ない方にとっては、配慮します。
- ③4日目以降は、1コマの時間数を増やし、「模擬授業+個人面接」という「本番」に近づけていきます。

時	分	502（講師B）	503（講師C）	504（講師D）	大教室501（講師A）	
10	00	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	(全体／個別指導中の方以外) ・場面指導 ・学習評価 ・学級・ホームルーム経営 ・生徒指導 etc	
	20	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）		
	40	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）		
11	00	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）		
	20	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）		
	40	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）		
昼食						
1	00	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）		
	20	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）		
	40	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）		
2	00	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）		
	20	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）		
	40	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）		
3	00	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）	小学校		
	20	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）			
	40	氏名（受験区分）	氏名（受験区分）			

令和7年7月23日

欠席の事前連絡のお願い

沖縄教職研究会

2次対策講座は、大教室（501教室）で全体的な指導を行いつつ、隣接する
中小の教室（502～504教室）で個別の指導を行ってまいります。

中小の教室で行う個別の指導においては、お一人ずつ「個別の割当て表」を作成し展開してまいります。

「個別の割当て表」の作成は、講座のある日の前日（午後7時ごろ）に完了します。

については、講座に参加できない時間帯があれば、その旨、事前にメールにてご連絡いただけるとたいへんありがたいです。これについては、振替の時間を設定いたします。

（例）高校（教科）の〇〇です。

26日（土）の午前中は欠席します。

（→この場合、午後若しくは後日に割当てます）

連絡先（沖縄教職研究会のメールアドレス）

info@okikyoken.org

【Aさん】

研究会の2次試験対策講座は、改めて自分を見つめなおして、自分がどういう教師になりたいか何を教えたいか、教諭の仕事について深く考える機会でもあった。自分自身、対策を始めたのが本当に遅く、周りに比べてかなり遅れを感じながら、焦って悩んでの日々で落ち込むことも多かった。ただ、知らない、できないことでよくよ考えるよりも、対策講座に通う周りの仲間を見て、まずは動くことが大切だと、半ば開き直りの気持ちで対策に取り組めた。同じ受験生や同僚、先輩からたくさん情報をもらうことができたのもこれまでの教員経験があつてこそだと感謝している。

何より、研究会の講師の皆様には、知識ほぼゼロの私に丁寧に指導して下さって本当に感謝しています。本当にありがとうございました。

【Bさん】

2次試験対策を受講しておりました〇〇(受験校種・教科)です。

本日、教員採用試験の最終合格者の発表があり、無事、合格しておりました。

2次試験対策講座では、受験調書の添削や、模擬授業や面接の練習をたくさん行うことができとても良い対策になりました。

2次試験について何もわからない状態で講座を受講したため、初日は考えることがいっぱいでもできませんでした。他の受講者の様子を見るだけでもたくさんの学びがありました。講座の期間中で、受験調書も良いものが仕上がることができましたし、模擬授業や面接も回を重ねるごとによくなっていたのを実感できました。本番も自信をもって臨むことができました。

試験後に教育実習があり、教職についてより深く経験することができ、教職に就きたいという気持ちがより強くなりました。

沖縄教職研究会では、授業・面接といった実践だけではなく、合格に向けて自分から行動する大切さも学ぶことができ、こちらでご指導いただけてとても良かったと実感しております。本当にありがとうございました。

以下、得点・順位と第2次試験の内容の報告となります。

(以下、略。)

【Cさん】

対策期間中、講座の先生方から何度も「答え方が淡々としている」と指摘されていました。

そこで本番では、面接員からの質問をあえて聞き返して話にアクセントを加えたり、答える際に意識的に「、」で区切りを入れて話すようにしました。(本番は緊張で早口になりがちなので、やりすぎくらいでちょうどよいと思います。)

また、私は学校での勤務経験がなかったため、現場に関する質問で分からないことは正直に「分からない」と伝え、「現場に出た際に答えを見つけていきたい」と答えました。面接員の方も「そうですよね。これから自分なりの答えをじっくり見つけてください」と言ってくださり、気持ちが少し楽になりました。

面接中は緊張しましたが、伝えたいことはしっかり伝えられたので、悔いなく終えることができました。私の経験が、来年度以降の受験者の力になれば幸いです。